

- 14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。
地の上で、平和が みこころにかなう人々にあるように。」
- 15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。
「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」
- 16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。
- 17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。
- 18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。
- 19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
- 20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

【 ミカ書 】

- 5:2 「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのために イスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている※。」

※注釈：「永遠の昔」の原語は、最も強い語感がある言葉。「メシアの永遠性」を示唆している。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会～クリスマス礼拝

2020年 12月 20日 (日) 礼拝メッセージノート



「 羊飼いたちのクリスマス 」

|クリスマス⑥ ルカの福音書2：1-20 他 小野寺 望 牧師

【 ルカの福音書 2章 】

- 1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。
- 2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。
- 3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。
- 4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
- 5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。
- 6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、
- 7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
- 8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。
- 9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。
- 10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。
- 11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
- 12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけてます。それが、あなたがたのためのしるしです。」
- 13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

唯一の救い主を礼拝し、真の平安を受け取れ

※参照 1サム16:7

- 1.降誕物語は蔑まれていた者を神はあわれみ、その謙遜さ※を祝された史実。
 - ①平和を求める願いを叶え、最初のメシアの目撃者とした。
 - ②天の軍勢と栄光を持たれる神は、赤子という低い姿で臨んでくださった。
- 2.現代社会でも、真の平安が存在することを表す史実である。
 - ①コロナ禍なども影響し、人々の孤独、不安は減ることがない。
 - ②今も救い主はおられ、求める者に平安を与えてくださる。

*たとえ目の前の状況がすぐ好転しなくても、その捉え方が劇的に変えられる。

=====

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

神はへりくだる者と共にいてくださる。

*このメッセージは、高慢を捨て、平安を受け取る幸いについて学ぶものである。

I 歴史的背景～それは歴史的事実である

1.皇帝アウグストの人口調査

- (1) アウグスト(名はオクタヴィアヌス)の素性 【B.C.27～A.D.14在位】
 - ①ユリウス・カエサルの子で、カエサルの死後、ローマ帝国初代の皇帝となる。
 - ②前27年、元老院がこの称号を送る。③「崇高なる者」「大いなる者」の意。
- (2) 「クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録」
 - ①クレニオがシリアの総督であったのは、紀元6年以降である。
 - ②彼は2度シリアの総督を務め、この調査は前8年に実施されたものである。

*前107年、クレニオはシリアの軍事担当総督であった(W・M・ラムゼー)

*ルカの証言は信用できる：靈感された記録に、歴史的証明が後で追いついた。

2.背景を詳細に記す理由

- (1) ミカ書5:2のメシア預言が成就したことを示すため
 - ①マリヤとヨセフがベツレヘム※に向かう背景である。 ※エルサレムの南8キロ
 - *彼ら夫婦はダビデの子孫であり、「自分の町」(ダビデの町)に向かった。
 - ②「自分の町」には2つの意味がある：メシアが降誕した地は後者。
 - a ルカ2:39「自分たちの居住地、ガリラヤのナザレ」
 - b 先祖の町で「本籍がある登録地、ユダヤのベツレヘム」

*1家族ごとの戸籍が記されたパピルスが、エジプトで発掘されている。
 - ③歴史的事実として、メシア預言が成就したことを示した。

*歴史をつかさどる神が、あらゆる人物や状況に働かせる。

*オクタヴィアヌスやクレニオも、こんなことは知る由もない。

④妊婦のマリヤが同行する必要があったか：神の摂理の御手である。

II イエスの誕生～恐れずに、救い主に歩み寄れ

1.イエスの置かれた状況

- (1)「布にくるんで」：当時の習慣。赤子の両腕が伸びるように。エゼ16:4
- (2)「飼葉おけに寝かせた」：家畜(ろば、羊、山羊)に餌を与える場所
- (3)これらの厳密な描写は、後に登場する羊飼いたちにとって重要な情報となる。
- (4)「宿屋には彼らのいる場所がなかったから」※ ※神の摂理の御手である。
 - ①ホテル(宿屋)に空き部屋がなかったという意味ではない。
 - ②知り合い(親戚)の家には、空いている客間がなかった。

2.この状況の意味

- (1)メシアは人間が住む空間ではなく、家畜が住む空間で誕生された。
- (2)町の外にある自然の洞窟が、家畜の囲い場になっていた(ヘブル的解釈)
 - ①「布にくるんで」：当時は、死者の埋葬はすぐに行われた(腐敗する前に)。
 - ②町の外の墓に行く途中に洞窟があり、そこに埋葬のための亜麻布が貯蔵された。
- (3)ピリ2:6-8 低き者は高くされ、高き者は低くされるという真理の始まり。

*因みにマリアの賛歌(マグニフィカト)の中で歌われていた。

III 羊飼いたちへの祝福

1.御使いへの天使の言葉：「恐れることはありません」

- ①「この民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来た。」
- ②神の栄光を目にした際の自然な反応は恐れ→赤子の姿に恐れは全くない。

2.御使いたちの素性

- ①当時、神殿で献げられる羊はエルサレムとベツレヘムの間で飼育されていた。
- ②宗教的な階層からは軽蔑の対象になっていた。

例：職業がら、パリサイ人たちのように律法を厳格に守ることができない。

盗み癖のある者たちとみなされ、法廷での証言能力が認められなかった。
- ③イエスの場合とは逆に、低き者は高くされる真理

3.天使が与えるしるしと賛美

- (1)天使は救い主誕生の事実を伝え、見分けるための「しるし」を与えた。
 - ①布にくるまって飼葉おけで寝ている赤子
 - ②天使の大軍勢の賛美が示す中心テーマは「平和」。

◆まとめ：神はへりくだる者と共にいてくださる

- 1.イエス・キリストの本質(これまでのまとめ)
- 2.なぜ、今日も、また異邦人にも平安を与えることができるのか
- 3.すべての不安の根本的な原因は、神との闘争(断絶)状態にある。
 - ①自己中心を捨て、神との関係を回復する者に、真の平安は与えられる。
 - ②羊飼いのように、者たちと共に歩んでくださる。